

## 【農作業等の事故による救急統計について】

郡山地方広域消防組合管内では農作業等の事故により過去10年間（2013年（平成25年）から2022年（令和4年））に合計381人を救急搬送しています。

これからの時季、本格的な農繁期を迎えるにあたり、農作業中の事故防止を図るため、救急統計をまとめましたのでお知らせします。

※ 田畑での農作業のほか、林業や園芸等を含む

※ 小数点を含むものは、小数第二位を四捨五入した数値

### <事故区分>

「転倒・転落」・・・田畑等を歩行中又は作業中に転倒・転落して怪我を負ったもの。

「チェーンソー・草刈り機等」・・・チェーンソーや草刈り機で直接的に切創等を負ったもの等。

「トラクター等の横転等」・・・トラクター、コンバイン等が横転する又は車両等に衝突する等して怪我を負ったもの。

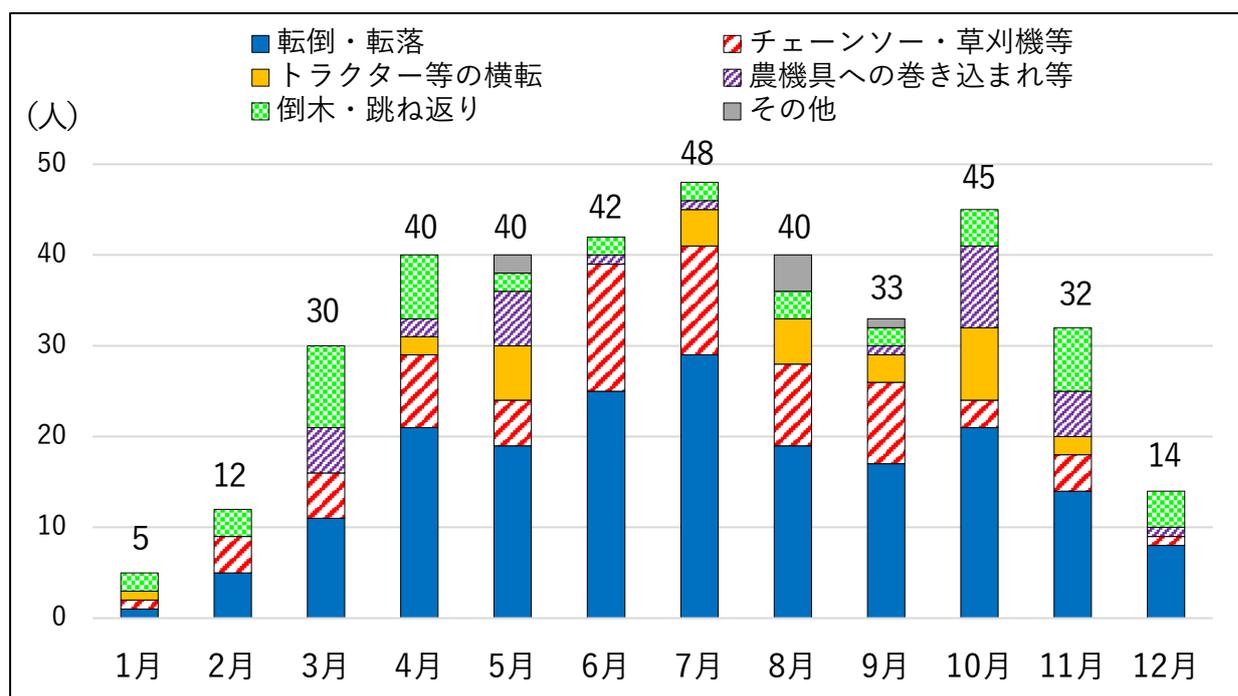
「農機具への巻き込まれ等」・・・農機具への巻き込まれ、挟まれ等によって怪我を負ったもの。

「倒木・跳ね返り」・・・チェーンソーなどで切った木に挟まれる、刈った枝の跳ね返りなど、二次的な要因で受傷したもの。

### 1 発生月別の救急搬送人員

発生月別の搬送人員をみると、農繁期となる4月から増加し、7月に48人（12.6%）と最も多くなっています。

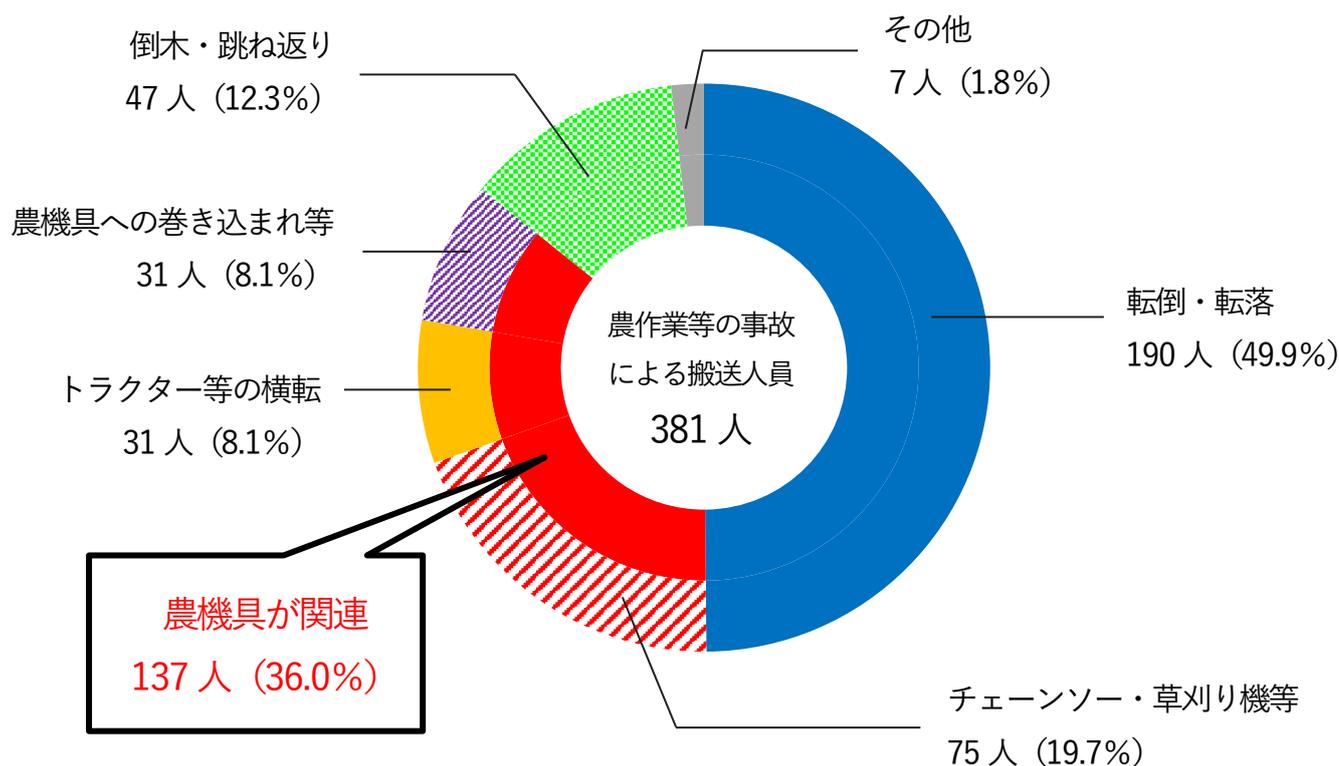
1月を除きすべての月で「転倒・転落」が最も多くを占めています。



## 2 事故区分別の救急搬送人員

事故区分別の救急搬送人員をみると、「転倒・転落」が190人(49.9%)で最も多く、「チェーンソー・草刈り機等」が75人(19.7%)、「トラクター等の横転」と「農機具への巻き込まれ等」がそれぞれ31人(8.1%)と続きます。

農機具が関連する事故による救急搬送人員は137人(36.0%)と、全体の3割以上を占めることが分かります。



### 《事 例》

#### ◆ 転倒・転落

- ・木を伐採中誤って約2メートルの脚立から転落(50代男性 中等症)
- ・農作業中畑のネットに足が引っかかり臀部から地面に転倒し腰部を受傷(70代女性 重症)

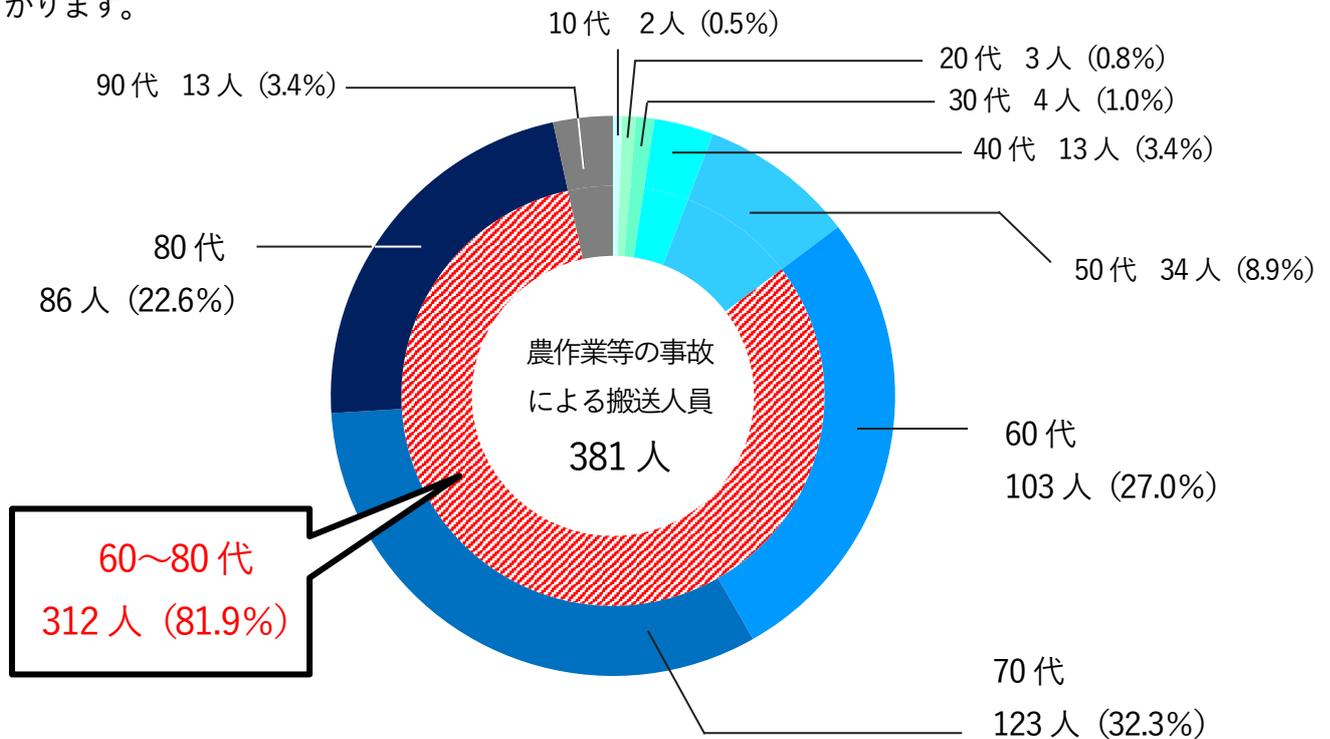
#### ◆ 農機具が関連

- ・畑内で木の伐採中、誤って左手をチェーンソーで切っしまい受傷(70代男性 中等症)
- ・脱穀作業中に回転式ブレードに誤って右手を巻き込まれ受傷した(80代男性 中等症)
- ・コンバインを運転し、バックしていたところ、土手から水田に横転(60代男性 重症)

### 3 年代別の救急搬送人員

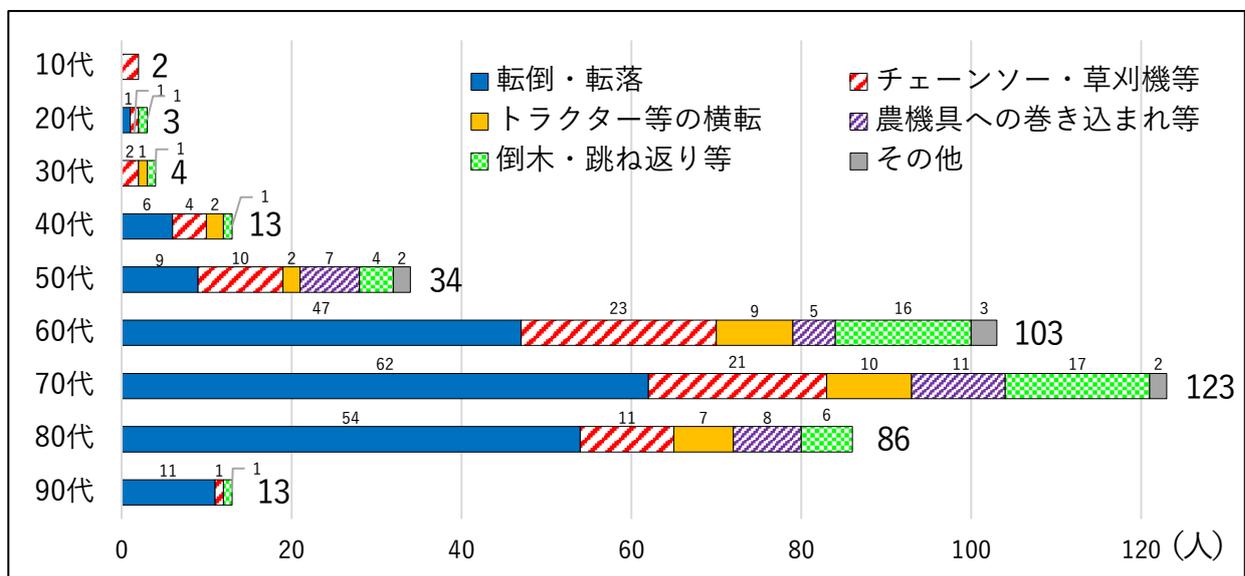
年代別の救急搬送人員をみると、70代が123人（32.3%）で最も多く、次いで60代が103人（27.0%）、80代が86人（22.6%）と続きます。

60代から80代で合計312人（81.9%）となっており、全体の8割以上を占めていることが分かります。



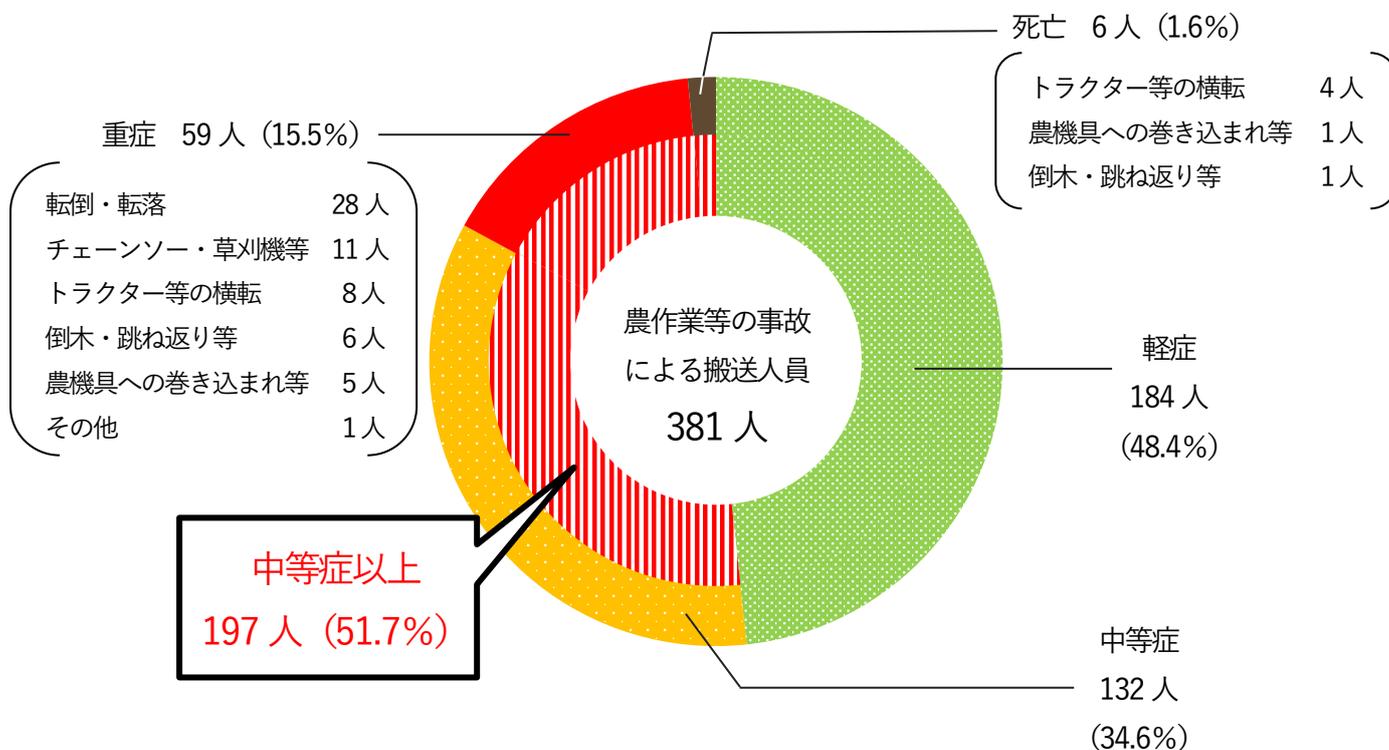
### 4 年代ごとの事故区別の救急搬送人員

年代ごとの事故区分の救急搬送人員をみると、70代と80代は「転倒・転落」がそれぞれ62人、54人と最も多く、いずれも年代における半数以上を占めています。



## 5 傷病程度別の搬送人員

傷病程度別の搬送人員をみると、入院が必要な中等症以上が197人（51.7%）と半数を超えており、全体として重症度が高いことが分かります。※ 重症及び死亡のカッコ内はそれぞれの傷病程度における事故区分



### 《事例》

- ・大型の草刈り機を使用中に誤って川に転落し、草刈り機の下敷きとなった（50代男性 重症）
- ・同僚と草刈中、誤って草刈機で同僚に足を切られ受傷（70代男性 重症）

## 6 事故防止の注意点

- ◆ 高所で作業するときは複数人で作業し、自己確保を取り、落下防止を図りましょう。
- ◆ チェーンソー・草刈り機を使用するときは周囲に人がいないことを確認し、必ず保護メガネや保護ズボンなどで肌の露出が少なくなるように注意しましょう。
- ◆ トラクター等を運転するときはくぼみや、斜面に注意しましょう。
- ◆ 農機具の整備はエンジンや電源が完全に止まっていることを確認してから実施しましょう。